

ASEAN 大使通信

第5回 日 ASEAN 協力の意義をどう伝えるか

2023 年（令和 5 年）4 月 26 日

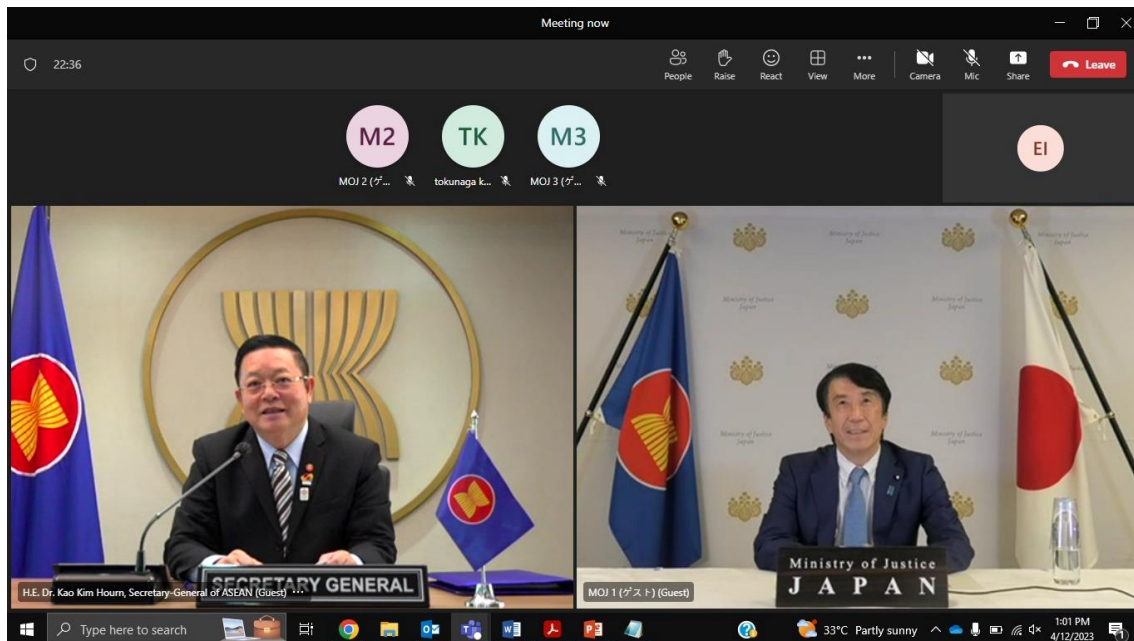


ジャカルタ日本人学校での講演（2023 年 4 月 14 日）

皆さん、レバラン休暇はいかが過ごされましたでしょうか。私はジャカルタにとどまり、長い週末をゆったりと過ごすことができました。

3 月下旬の用務帰国後、4 月からはジャカルタで日 ASEAN 双方の関係者との意見交換を重ね、日 ASEAN 友好協力 50 周年の重要な画期にふさわしい具体的な協力案件の形成に日々取り組んでいます。それと並行して、日 ASEAN 友好協力 50 周年についての講演を行い、インタビューも受けました。

その中で感じたことは、「日本と ASEAN 双方の一般の人たちに、日 ASEAN 協力の意義をわかりやすく伝えることの重要性」です。今回の大使通信では、今月の一連の行事をご紹介しながら、日 ASEAN 協力にはどのような意義があり、それをどのように伝えていくのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



カオ・キムホン ASEAN 事務総長と齋藤健法務大臣のテレビ会談
(2023 年 4 月 12 日、ASEAN 事務局提供)

●日 ASEAN 協力による法の支配の推進

日 ASEAN 友好協力 50 周年を記念して、日本では様々な行事が計画されています。6 月 5 日～9 日には、経済産業省や ASEAN 事務局をはじめ多数の団体の共催により、日 ASEAN ビジネスウィークが東京とオンラインのハイブリッドで開催されます。7 月 6 日～7 日には[日 ASEAN 特別法務大臣会合](#)と ASEAN・G7 法務大臣特別対話（ASEAN-G7 Interface）が開催予定です。

準備の一環として、4 月 6 日にインドネシアのヤソンナ・ラオリー法務人権大臣を表敬し、7 月の日 ASEAN 特別法務大臣会合等の準備状況を説明しました。日本は[インドネシアで法制度整備支援](#)を長年行っており、この表敬には検察官出身の及川 JICA 専門家が同席しました。昨年着任したばかりの由ですが、インドネシア語が大変流暢で、このような専門家が相互信頼の基盤になっていると感じました。

4 月 12 日には、齋藤健法務大臣がカオ・キムホン ASEAN 事務総長と[テレビ会談](#)を行い、私は ASEAN 事務局で同席しました。齋藤大臣とカオ事務総長は、7 月の会合を成功させ、連携・協力を強化していくことで一致しました。また、齋藤大臣はカオ事務総長に会合への対面での出席を要請して前向きな回答を得ました。日 ASEAN50 周年に際しての今次会合開催を通じて、[法の支配を推進するための日 ASEAN 協力](#)が進むよう願っています。



トヨタの電気自動車供与式（2023 年 4 月 17 日）

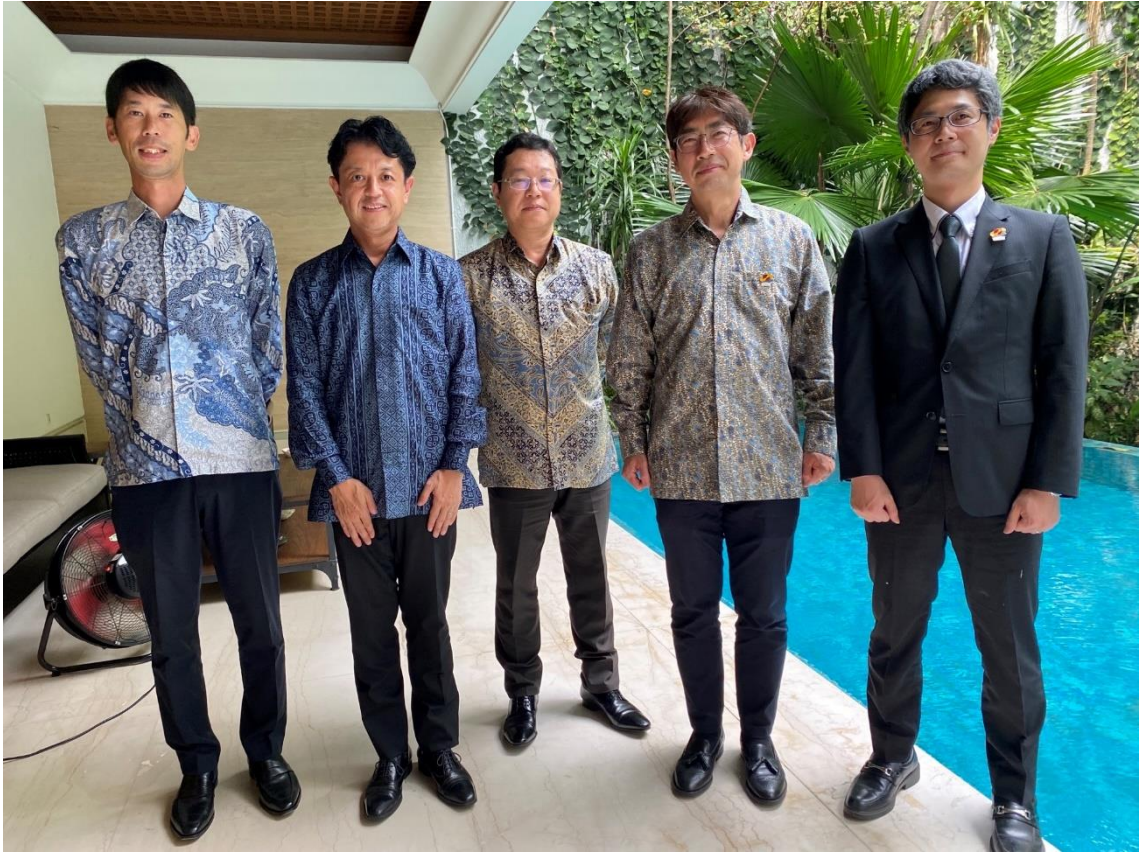
●ASEAN 首脳会議の運営と脱炭素化への協力

4 月 17 日には、トヨタ・アストラ・モーター（TAM）社のバッテリー電気自動車（BEV）の ASEAN 首脳会議への[供与式](#)に出席しました。

今回供与された 65 台の BEV（トヨタ bZ4X）は、5 月にインドネシアのラバンバジョで開催予定の ASEAN 首脳会議の代表団員用の公式車に使われるとのことです。

TAM 社から上田裕之社長、インドネシア政府からセトゥヤ・ウタマ国家官房次官が出席してそれぞれ挨拶を行い、引き続き BEV の前で集合写真とインタビューを行いました。インドネシア・日本双方の多数のメディアが今回の供与式を取材し、広く報じられました。

ASEAN でも脱炭素化は大きな課題です。今回、BEV の供与という形で日本企業が ASEAN 首脳会議の円滑な運営と脱炭素化に貢献することは、日本の存在感を高める上で大いに役立つものと感じました。



NEC との意見交換（2023 年 4 月 18 日）

●デジタル分野での日 ASEAN 協力

翌日の 4 月 18 日には、NEC アジア太平洋の小出浩一郎社長がジャカルタを来訪した機会を捉えて、デジタル分野の日 ASEAN 協力を推進するための意見交換を行いました。

多くの ASEAN 関係者から話を伺う中で、日本の協力に対する期待が最も大きいものの一つがデジタル分野です。これまで ASEAN に対しては、[日 ASEAN サイバーセキュリティ能力構築センター（AJCCBC）](#) をバンコクに開設し、2018 年から 700 人以上の研修を行ってきました。NEC もこの研修運営に協力しています。

それ以外にも、デジタル技術を活用した ASEAN 内外の連結性の向上やスタートアップ支援をはじめ、日 ASEAN 協力には様々な可能性があります。50 周年の本年を機に、ASEAN 事務局や加盟国などの関係者から更にニーズを聴取して、日 ASEAN の価値共創につながるインパクトの大きなイニシアティブを実現していきたいと思います。



ジャカルタ日本人学校での講演（2023 年 4 月 14 日）

●ジャカルタ日本人学校での講演

日 ASEAN 協力に取り組む中で、ASEAN 側の関係者からアドバイスを受けたのは、「日本は良い協力をしているが、あまり知られていない。広く理解してもらえよう、伝え方（ブランド化）を工夫すべきである。」という点でした。日 ASEAN 協力を強化する上で、まず日 ASEAN 双方の幅広い人たちに理解してもらうことが第一歩だと痛感しています。

4 月 14 日、[ジャカルタ日本人学校](#)の中学部約 150 名に対して、[日 ASEAN 友好協力 50 周年、日インドネシア国交樹立 65 周年について講演](#)する機会をいただきました。中学部の総合学習の一環です。なるべくわかりやすいように、「なぜ、何を学ぶのか」「ASEAN とは何か」「インドネシアとは何か」「どう未来をつくるか」という構成で、[動画](#)も交えて説明しました。最後に、「総理への提言」と「自分たちの決意表明」を課題として出しました。

6 月には ASEAN 事務局を訪問し、7 月下旬には「提言」と「決意表明」を発表予定です。まずは、日本と ASEAN の未来をつくる子供たちに正面から向き合い、次世代の理解と行動を広げていきたいと思います。



アンタラ通信によるインタビュー（2023 年 4 月 13 日）

●日 ASEAN 協力の意義と可能性をどのように伝えるか

前日の 4 月 13 日には、大使公邸でインドネシアのアンタラ通信のテレビ・インタビューを受けました。質問内容は、「ASEAN 議長国としてのインドネシアに対する評価」、「日 ASEAN 友好協力 50 周年の意義」、そして「地政学的緊張への対応」についてでした。放送に先立って、[アンタラ通信](#)や[インドネシア政府](#)のウェブサイトでも早速報道されました。

また、年初のキックオフ行事が一段落し、特別首脳会議の準備が本格化する現段階での進展と課題について、[『ASEAN と日本ー友好協力 50 周年をどう生かすかー』](#)という小文にとりまとめ、霞関会ウェブサイトに寄稿しました。よろしければご覧ください。

日 ASEAN 協力は、次世代やオピニオンリーダーを含む双方の国民に広く知ってもらうことで、初めて評価され、発展していくものです。12 月の特別首脳会議に向けて、日 ASEAN 協力の意義と可能性を知ってもらうために工夫と努力を続けたいと思います。皆さんも、情報共有にご協力いただければ幸いです。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦